
え？ソフトテニスって何！？

かえん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

え？ソフトテニスって何！？

【Nコード】

N0786Q

【作者名】

かえん

【あらすじ】

都内に引っ越してきた主人公、涼風真^{すずかぜしん}。
中学校生活にロマンを抱いてる、健全？な男の子。

硬式テニス部に入ろうとした彼は、
誤ってソフトテニス部に入ってしまったて・・・。

*** 1話* 勘違いって何!? (前書き)**

はじめまして。

読んでいただけたら光栄です!

感想・アドバイスは何でもお願いします!

* 1話* 勘違いって何!?

東京都にある、宮丘中学校。略して宮中。

俺の家からいちばん近い、ごく普通の公立の中学校だ。

俺様の中学校ライフが始まるうとしていて！

無性にワクワクする。

高いモチベーションを持って、堂々たる正門を通る。

横にはテニスコートがある。

テニスは好きだ。というか習ってたし。

あと練習している女子のスコート姿が・・

・・紹介が遅れたね。

俺の名前は、涼風真（すずかぜ しん）。中学1年生！

顔に自信はあるんだが・・彼女いない暦[〓]年齢[〓]。

普通だよな・・？まあ、中学や高校でできるから気にしない。

それより心配なのは、今から入るクラス。

この春、この学校の近くに転校してきたから友達がいねえ。

そんな事も気にしないのが俺だけだね！

俺は、クラスに入る！

中に入ると既に、幼馴染メンツ的な奴らが固まっていた。俺は番号と席を照らし合わせてド真ん中の廊下側に座る。

隣が美女だったら座った瞬間に声をかけよう。どうか？

チャイムが鳴ると同時に先生も教室に入ってくる。みんな足早に座り、隣の子もやってくる。

キタツ!!キタぞ!!!!

俺よりちっちゃくて、髪はちょいちょい長くて、顔も良し!!!

椅子の後ろに名前シールが貼ってある。

滝川彩華（たきがわ あやか）。

「彩華ちゃん、よろしく!」
と反射的に俺は言った。

「はっ???気安く下の名前で呼ばないでちょーだい。」
と言われた。んあっ?

まさかのツンデレか。
あいにく俺の守備範囲じゃねえわ。

「ごめんよ・・・君もヨロシク!」
とりあえず肩を叩いて前のノツポな男子に振った。

名前を見ると、白井蓮（しらい れん）。
色白くて気弱そうな奴だ。

「うわあっ・・・チカンだあ！！」
と大声で叫ばれて指をさされる。

なぬっ！？

どういう根拠から！？

クラスは凍った。

みんな白い目で俺を見つめる。

本当に俺、大丈夫かな・・・。

まず、この二人を友達にしないと色々誤解を招くことになりそうだ。

俺の春は遠いな。

時は過ぎる！

体育祭などを経て、みんなとの関わりを深める。

なんとか誤解を解いて、友達もできた。
彩華と蓮は俺からの一方通行だけどね。

でも、予想以上に絡みにくい子が多いクラスだった。
ギャルは男女問わずいるし、ヲタクも不良もいるよ！

女の子は普通の子が多いかな。

でも下の名前で呼ぶと、距離を置かれる感じがするね。

それが都会ってもんか？

ま、どこ行ってもそんな変わんないか。

放課後、蓮が俺に話しかけてきた。
珍しいね。

「真、テニス部の仮入部行かない・・・？」

部活の仮入部の最終日か。俺も入るならテニス部かな。

けれども俺は今日、録画したビデオを見たい！
最近バタバタして消化できない。

「俺、入部届けを出しちゃう！蓮も出しちゃえよ。」

俺は蓮の手を引っ張って、先生に入部届けを提出。

「本当にいいんだな？じゃあお前らには・・・」

顧問兼、担任兼、ハゲの男、鶴田先生は言う。

「説明はいつでもいいから！さいなら！」

俺はスキップしてその場を跡にした。

ちゃんと話を聞いておけば良かったのにな・・・。

翌日、俺と蓮は鶴田に呼び出された。
悪いことはしてねーよ？

「よし！まずは部員集めからしよう。ソフトテニス部の部長と副部長！！」

思わず吹きだす俺。突っ込みどころ多いぜ、兄貴！

「先生！！状況が把握できません！」

「何が？部長っていうこと？部員がいないんだから当然だろ・・・」

「それもおかしいと思うけど・・・ソフトテニスって何？」

鶴田は「そこかよっ！」と吹きだす。それにしても蓮は空気だ。

ソフトテニス。

「ゴム製のボールをネット越しにラケットで打ち合う球技・・・」

俺は帰ってパソコンで調べる。

不器用だけど検索くらいはできる！

テニスと似た競技だよな。
てかソフトって文字を足しただけじゃね？

とにかく、俺は勘違いしてソフトテニス部に入ってしまった。
部員は俺と蓮だけ。部長は俺で副部長は蓮。

どうやらこの学校に、普通のテニス部はないらしい。
やりたい奴は、近所のスクールに行くそうだ。

俺もその話を聞いて、スクールに行こうっ！と思ったが
俺は・・・思った。

「自分の集めたメンツで頂点を極める・・・青春じゃん!!」

中学のソフトテニスをやる人口は多いらしい。
このスポーツで夢見るのも面白くないか？

俺は決めた。この学校に伝説を残してやる!!

*** 1話*** 勘違いって何!?(後書き)

ありがとうございますー!

これからぜひぜひ面白くしていただくので、良ければ見てください!

*** 2話*** 部員集めって何!?(前書き)

コメントとネットの友達が欲しいかえんです。
なんだか飢えてる!笑

2話 部員集めって何!?

「ほんとうにいいんだなッ!」

「・・・うん」

「ほんとうにほんとうにいいんだなッ!」

「・・・うん!」

「ほんとうにほんとうにほんて」

「うん!つつてんだろ!」

よし。良い返事だ。

最後の荒っぽい返しは聞かなかったことにしよう。

俺は蓮に何度も、副部長としてやっていけるかを聞いた。本当に、そんな事をしている場合じゃない。

でもこれからする「部員集め」をするにあたって、

俺らの誠意が伝わらないからね。

- - - 数日前 - - -

「先生！！俺はソフトテニスで
この学校に名を残します！！！」

「よく言った。けどな、部員が8人いないと試合には出れないよ。」

「先輩はいないんですか？
しっかり者がいないから俺が部長なんですよね？」

諸事情により一旦停止

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0786q/>

え？ソフトテニスって何！？

2011年1月16日02時59分発行